

「多文化防災ワークショップ」

「防災を通じて多文化共生について考えよう」のご案内

2011年の東日本大震災では、情報が得られずに不安を感じる外国人外国人被災者の姿が見られました。また、予期せず外国人被災者が集まった避難所の多くでは、言葉や文化の異なる外国人被災者の対応に苦慮したという避難所運営者の声も聞かれました。

そこで（公財）仙台観光国際協会【旧・（公財）仙台国際交流協会】では、避難所の中で起こる「日本人」と「外国人」の間の問題をテーマとしたワークショップ教材を作りました。言語や文化の違いから起こる誤解や行き違いについて、解決の方法や、どうすればそのようなことが起こらないようにできるかを参加者で話し合うことを目的としています。

👉 4つのケーススタディ

ケーススタディは4つあります。それぞれのケーススタディは独立したエピソードです。1つのケーススタディだけでも話し合いはできますが、複数のケーススタディをすることで多文化共生について考えることができます。

ケーススタディ①「避難所のストーブ」

ケーススタディ②「こんな時でも必要なの？」

ケーススタディ③「飛び交う情報」

ケーススタディ④「外国人は避難所の『お客さん』？」



👉 ワorkshopの特徴

- ◆ 東日本大震災で見聞きした話をもとに制作しました。
- ◆ 留学生、市民団体、町内会、行政、国際交流協会など、さまざまなメンバーが協働で制作しました。

👉 ワorkshopの内容

- ◆ 対象：小学生くらいから誰でも参加できます。
- ◆ 人数：5人以上であれば何人でもできます。1グループ5人で行います。
- ◆ 時間：1つのケーススタディにつき、40～60分間くらいです。
- ◆ 詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

http://int.sentia-sendai.jp/j/activity/tabunka_bousai_workshop.html

お問い合わせ

公益財団法人仙台観光国際協会 国際化事業部 国際化推進課

Tel: 022-268-6260 / Fax: 022-268-6252 / Email: kokusaika@sentia-sendai.jp

〒980-0811 仙台市青葉区一番町3丁目3-20 東日本不動産仙台一番町ビル6階